



...for patient comfort.

株主様向け事業説明会

2023年6月28日

日本ライフライン株式会社

東証プライム市場：7575

Unauthorized copying prohibited.

Copyright © 2023 Japan Lifeline Co., Ltd. All rights reserved.

- | | |
|-------------|----------------|
| 1.会社紹介 | 代表取締役副社長 鈴木 厚宏 |
| 2.既存領域の取り組み | // |
| 3.新領域の取り組み | 取締役 村瀬 達也 |
| 4.中期経営計画の概要 | 取締役 江川 毅芳 |

1.会社紹介	代表取締役副社長 鈴木 厚宏
2.既存領域の取り組み	//
3.新領域の取り組み	取締役 村瀬 達也
4.中期経営計画の概要	取締役 江川 毅芳

メーカー



商社

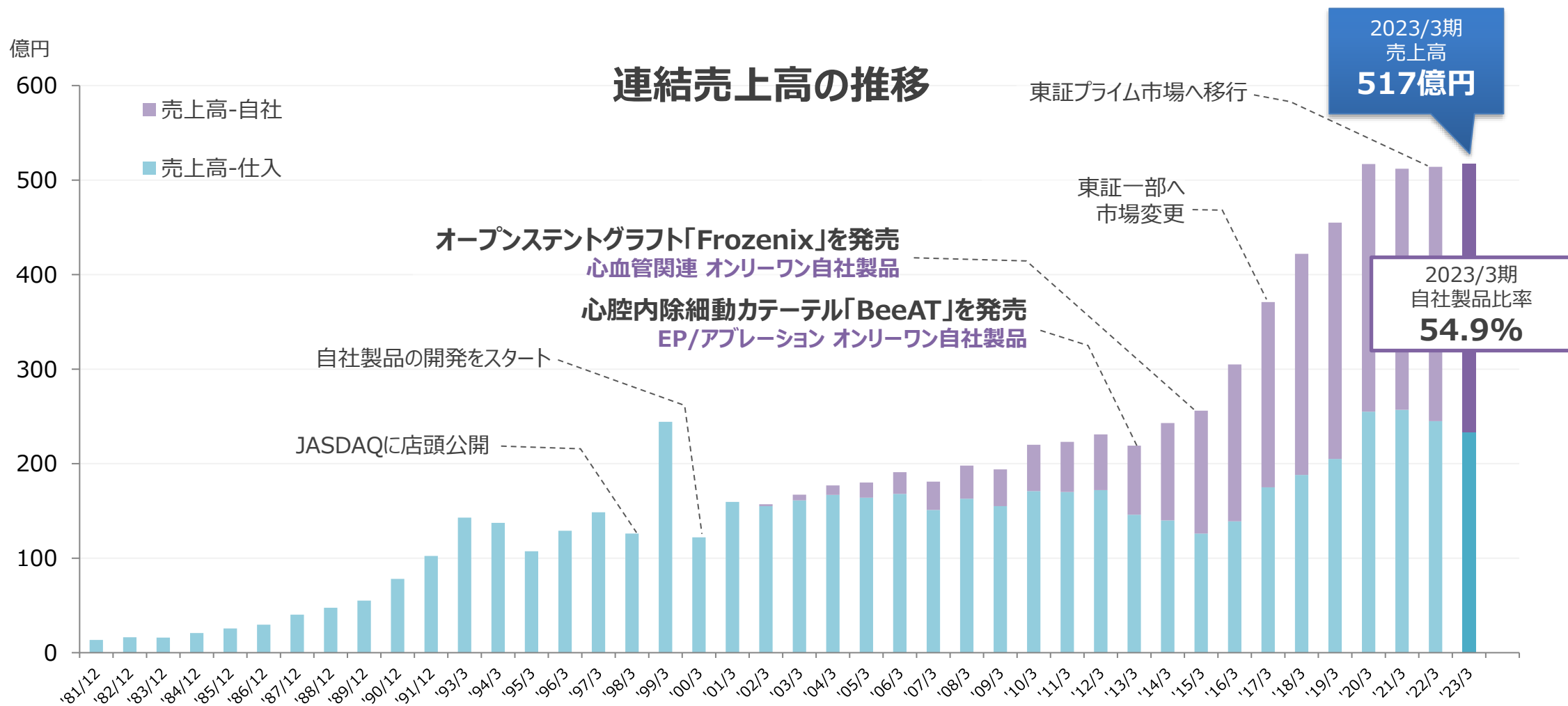
連結売上高
517億円

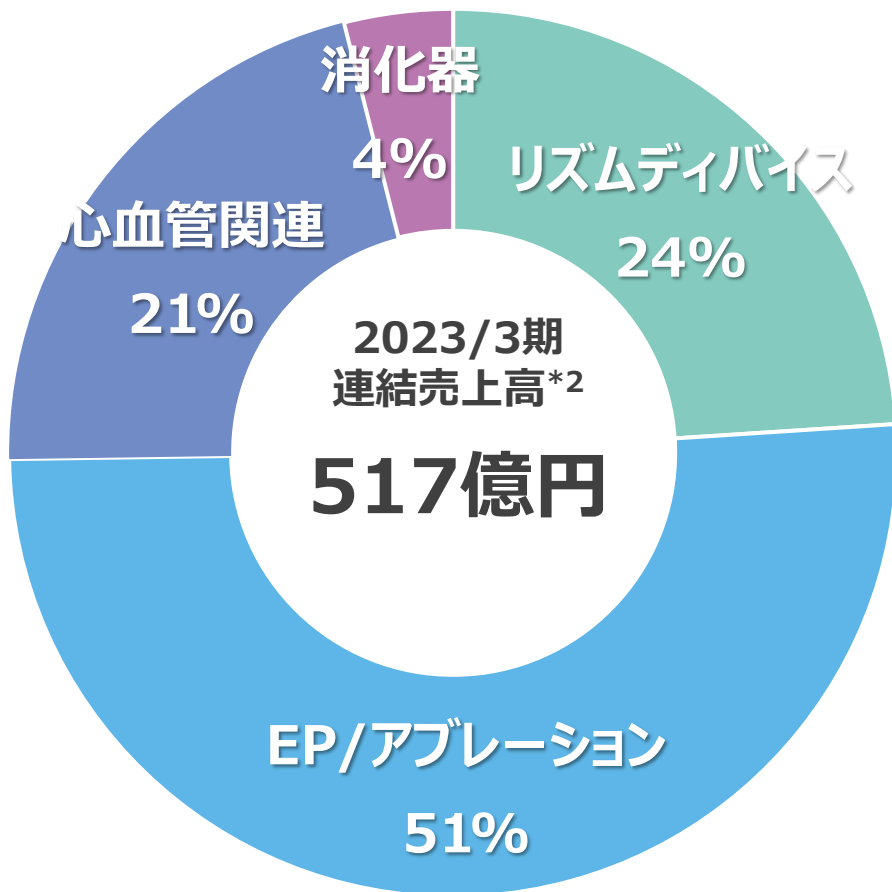
※2023年3月期

営業利益率
20.9%

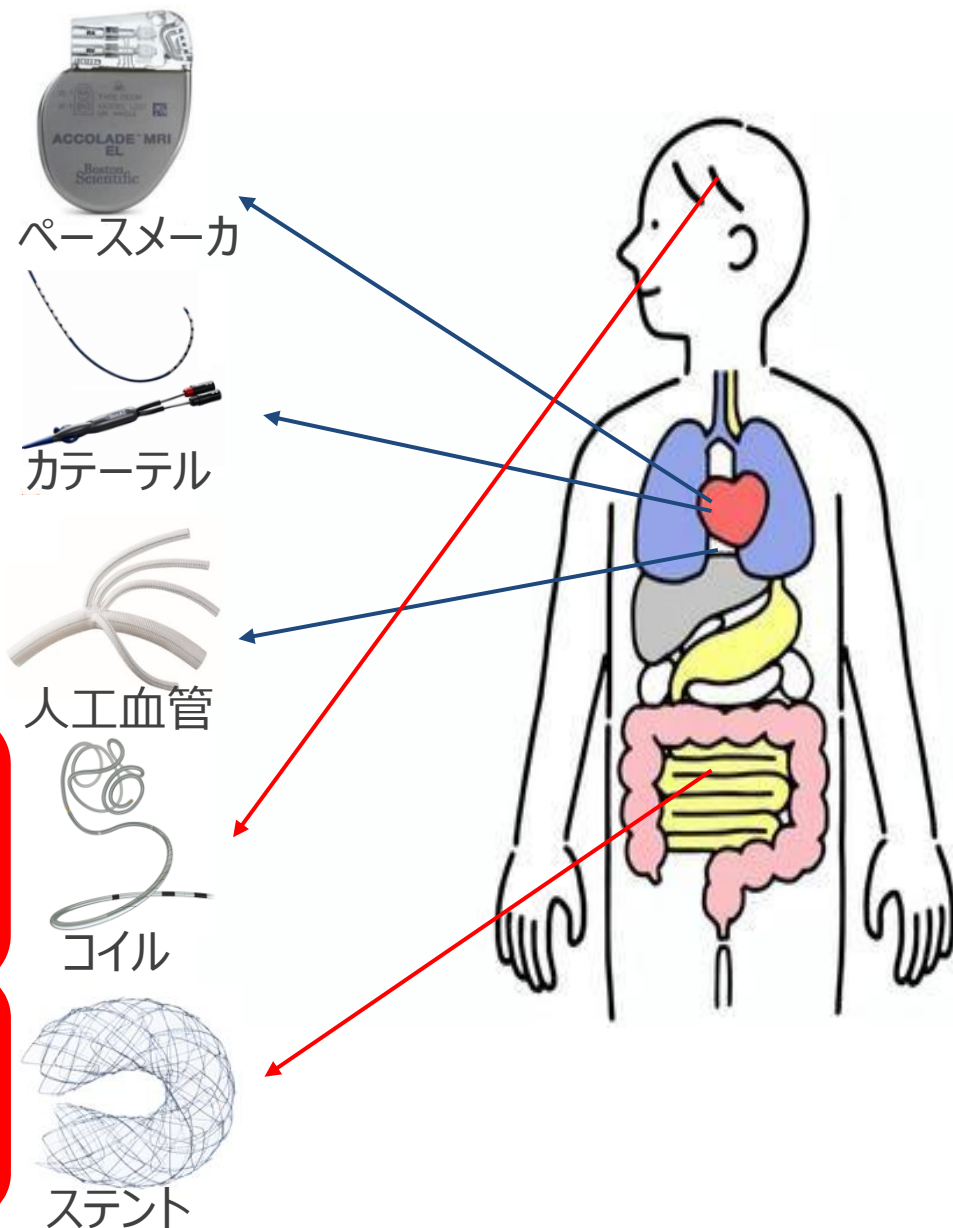
※2023年3月期

- ✓ 業界で類を見ないメーカー/商社のビジネスモデルと、オンリーワンの自社製品を軸に成長





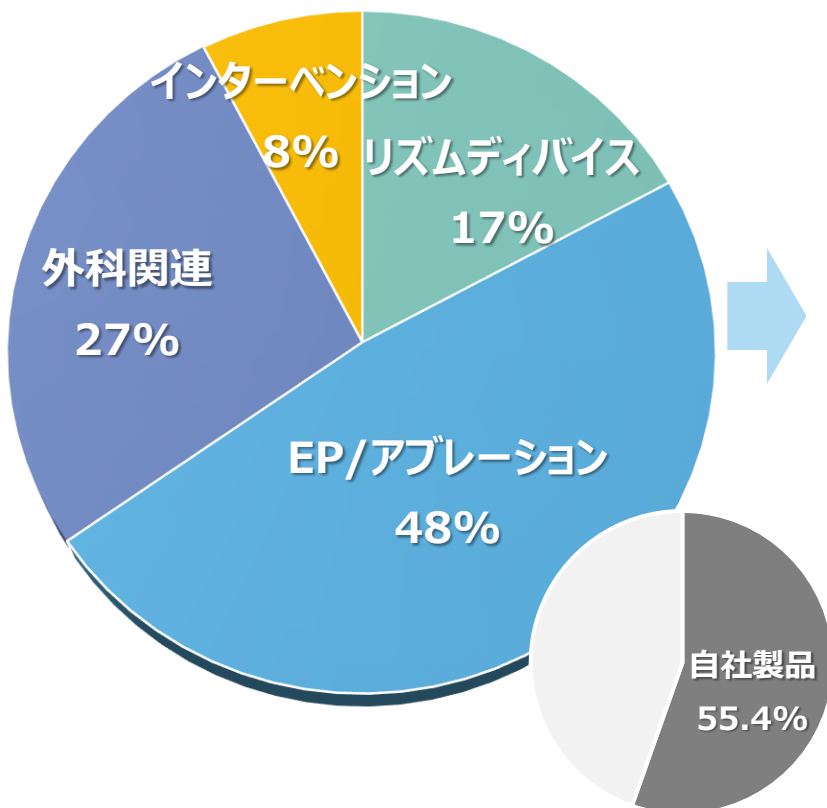
新領域



事業構成比の推移見通し

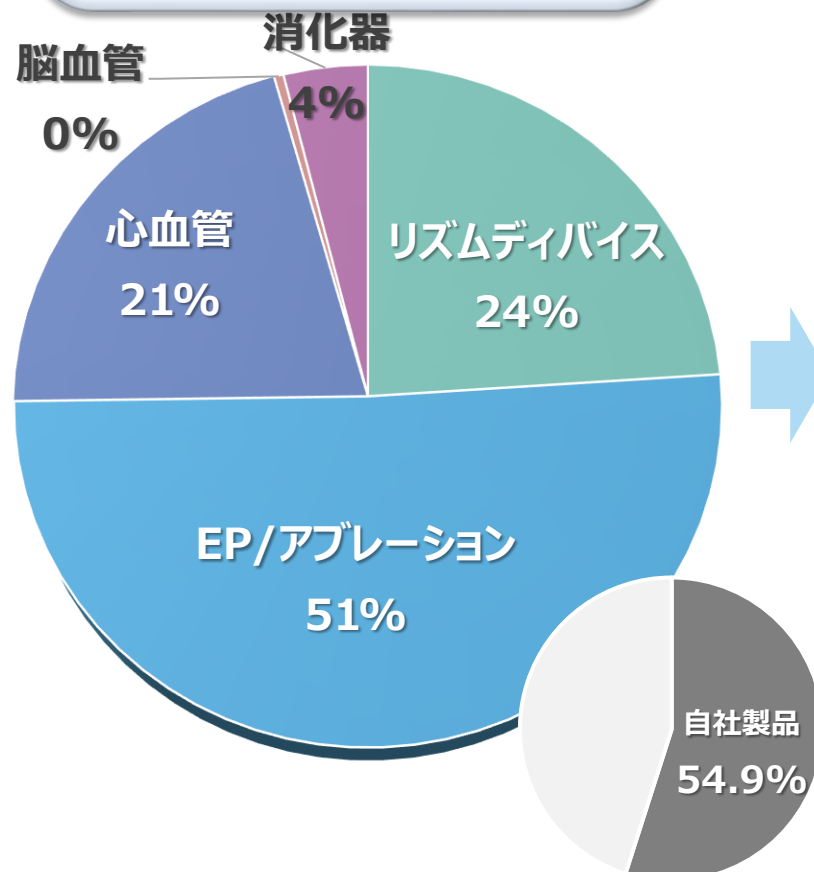
2018年3月期

売上高 422億円
営業利益 106億円
EPS 98円



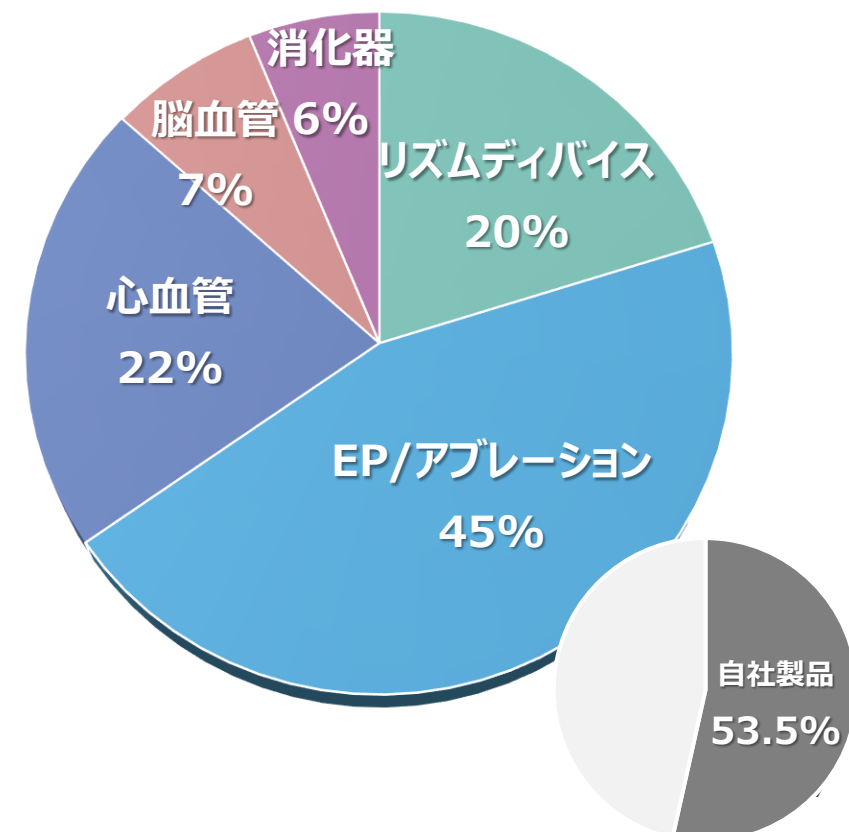
2023年3月期

売上高 517億円
営業利益 108億円
EPS 88円



2028年3月期(予想)

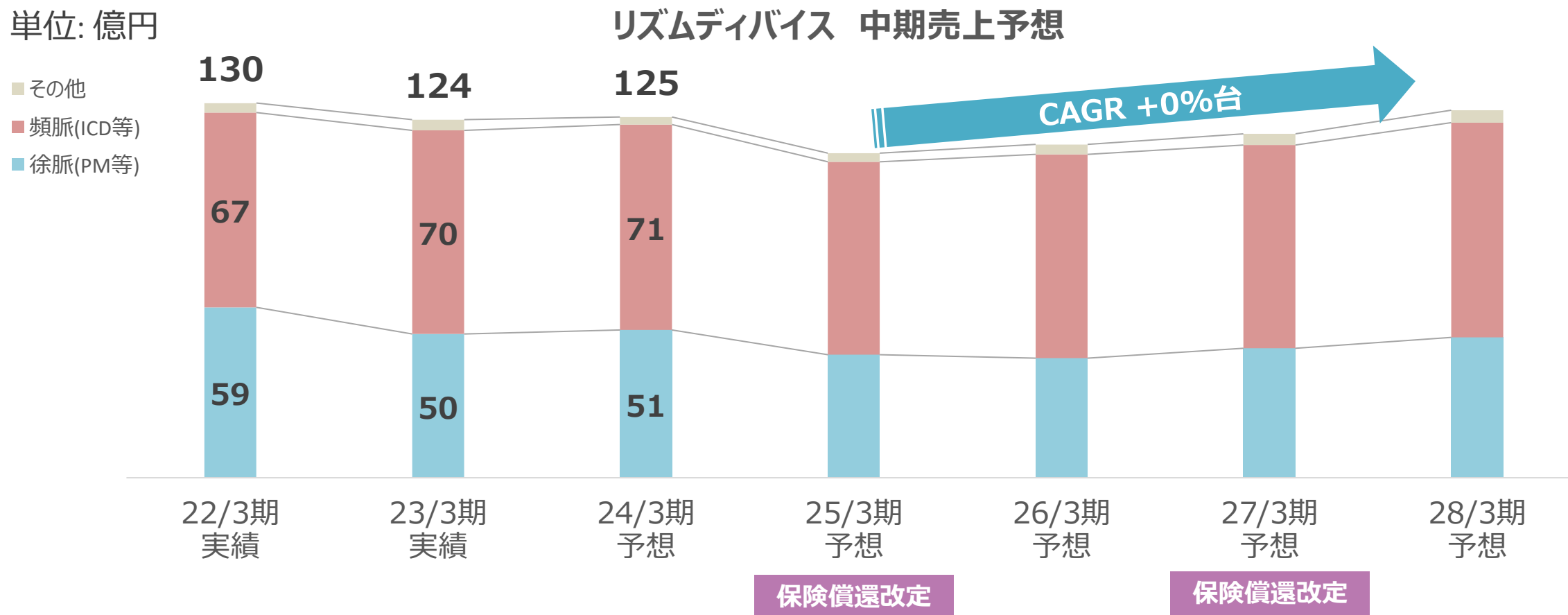
売上高 630億円
営業利益 126億円
EPS 120円



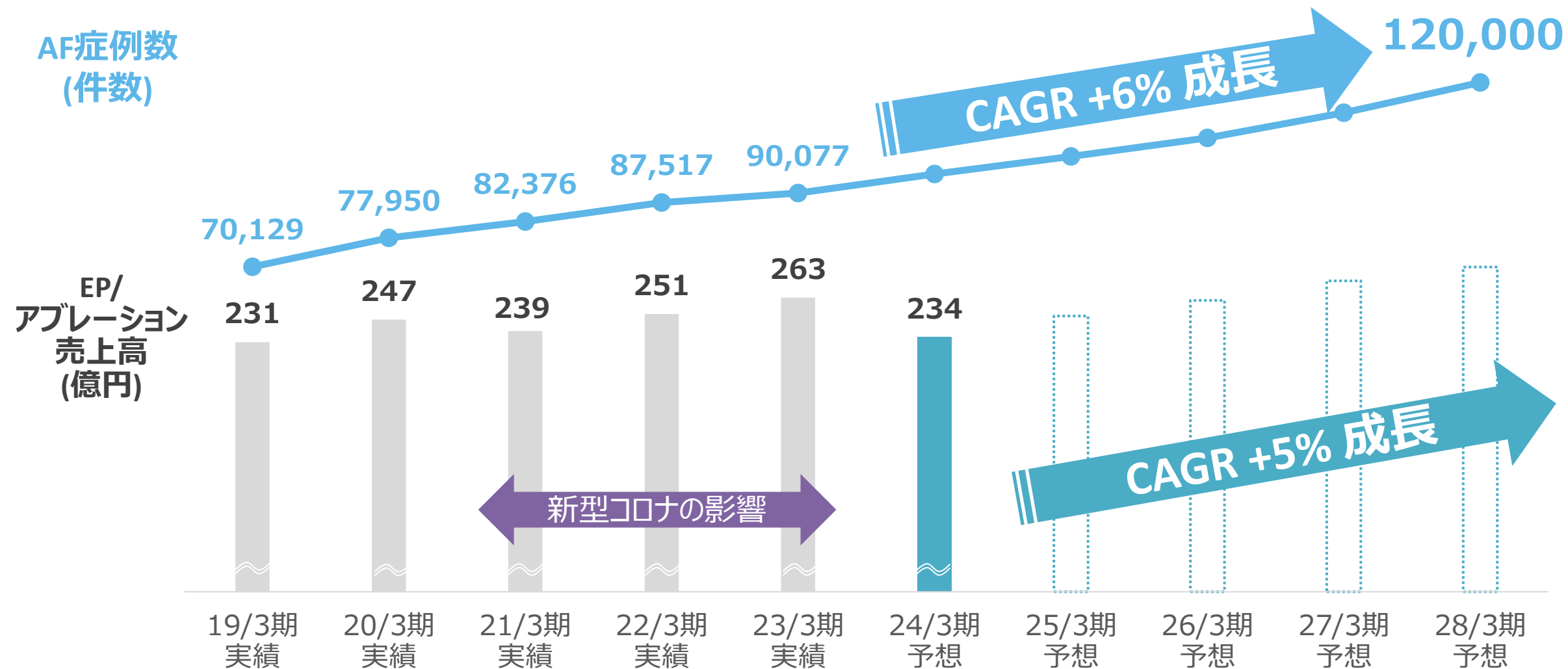
- | | |
|-------------|----------------|
| 1.会社紹介 | 代表取締役副社長 鈴木 厚宏 |
| 2.既存領域の取り組み | // |
| 3.新領域の取り組み | 取締役 村瀬 達也 |
| 4.中期経営計画の概要 | 取締役 江川 毅芳 |

症例数は緩やかな増加見込も、保険償還改定でマーケットはゼロ成長予想。
競争のないオンリーワンのS-ICDを軸に安定した収益を確保する

単位: 億円



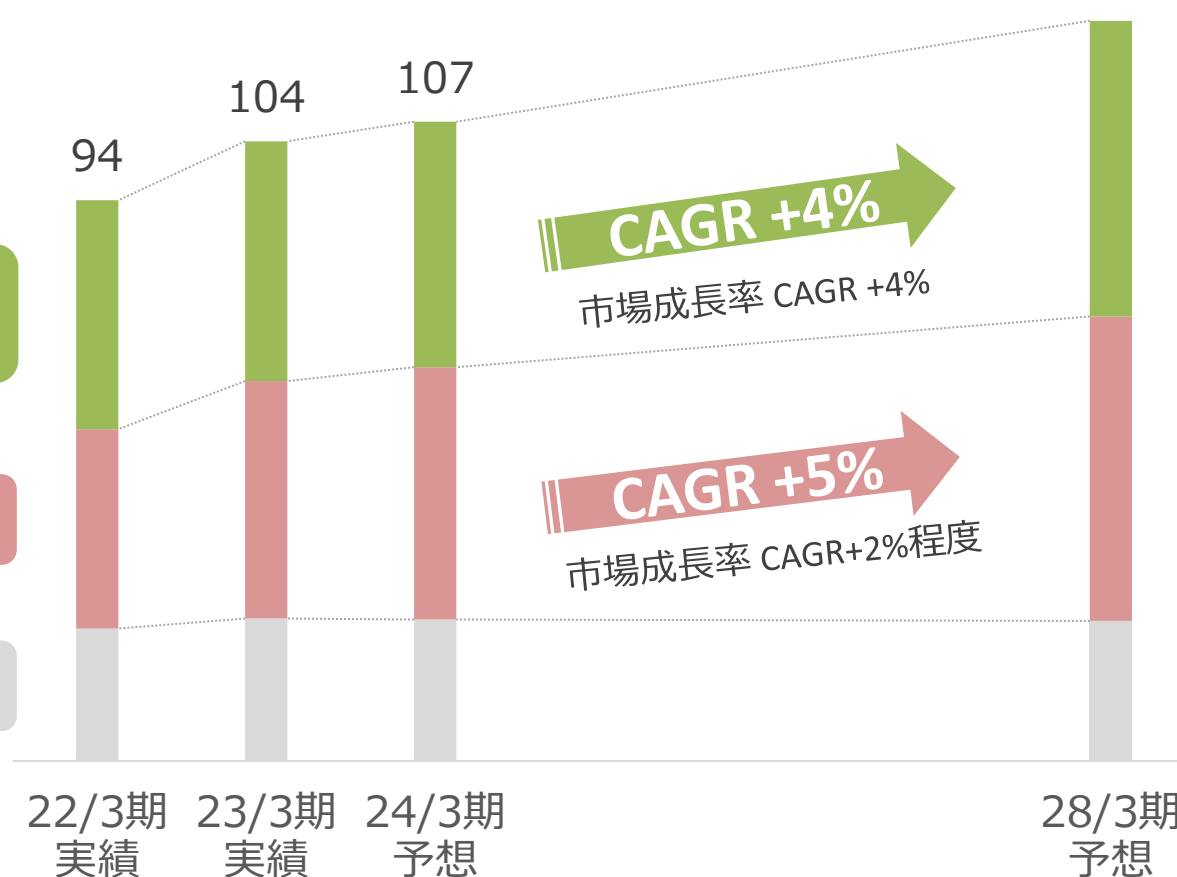
主力のEP/アブレーションは、症例数の堅調な伸びを背景に、今後も成長



オンリーワン製品の強化でシェアトップの地位をさらに強化

単位: 億円

人工血管関連の売上高

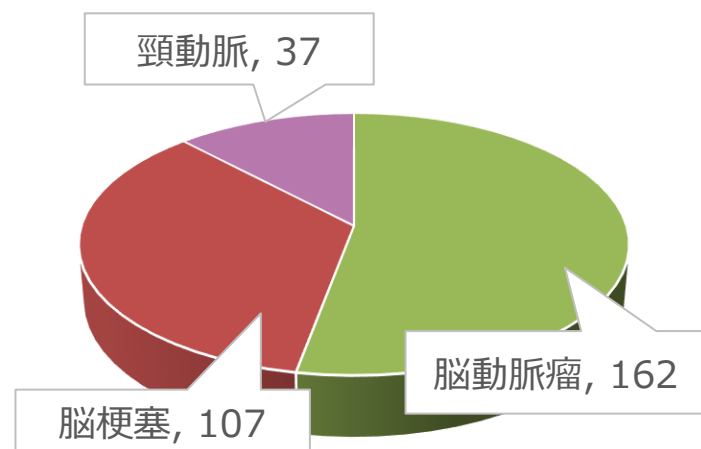


- | | |
|-------------|----------------|
| 1.会社紹介 | 代表取締役副社長 鈴木 厚宏 |
| 2.既存領域の取り組み | // |
| 3.新領域の取り組み | 取締役 村瀬 達也 |
| 4.中期経営計画の概要 | 取締役 江川 毅芳 |

脳血管内治療は急速な普及期。特長ある製品で成長を取り込む

単位: 億円

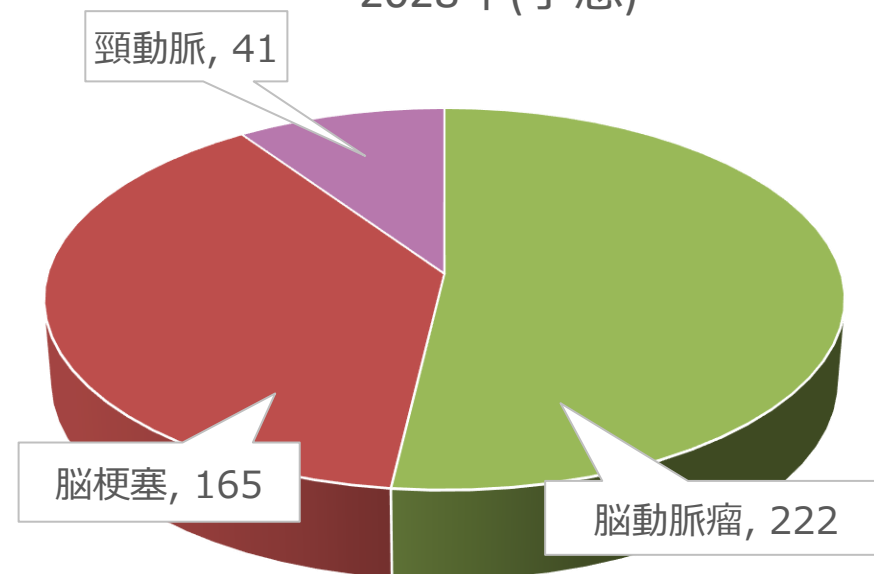
2022年



市場規模 約310億円

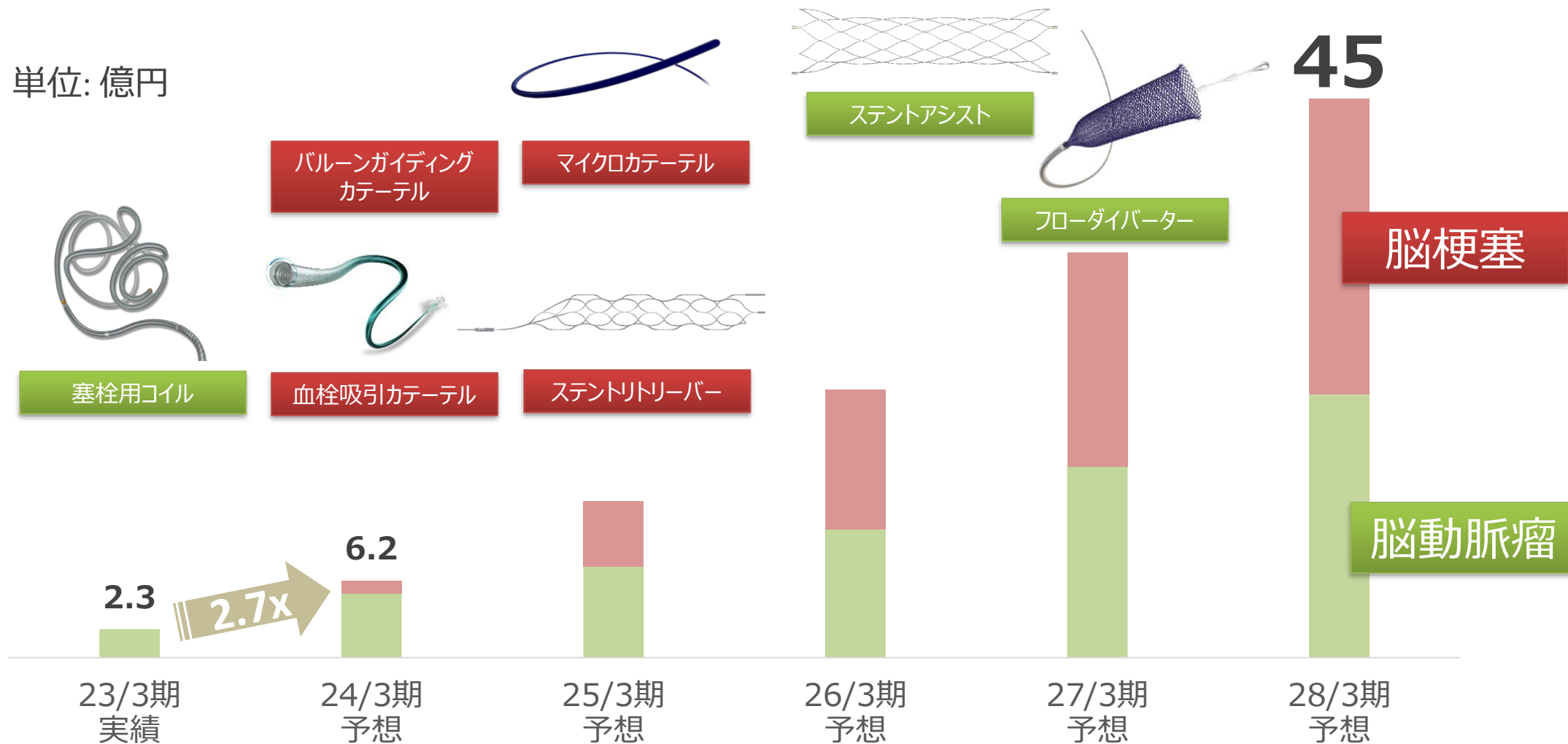
1.4倍
CAGR 6%

2028年(予想)



市場規模 約430億円

Wallaby Medical/phenox社の商品を展開し、早期に市場プレゼンスを確立



自社技術の応用で、消化器領域に商機を見出す

心臓血管領域

心血管関連(人工血管)
ステント編み込み技術



EP/アブレーション
アブレーション技術



EP/アブレーション
高機能カテーテルシャフト技術

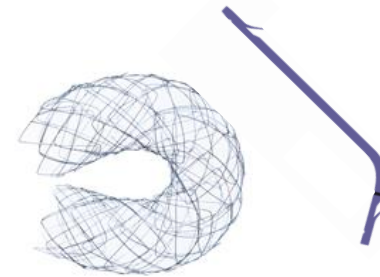


冠ナリー・インターベンション
ワイヤー・バルーン技術



消化器領域

大腸用ステント
胃十二指腸用ステント
胆管チューブステント



肝臓ニードル

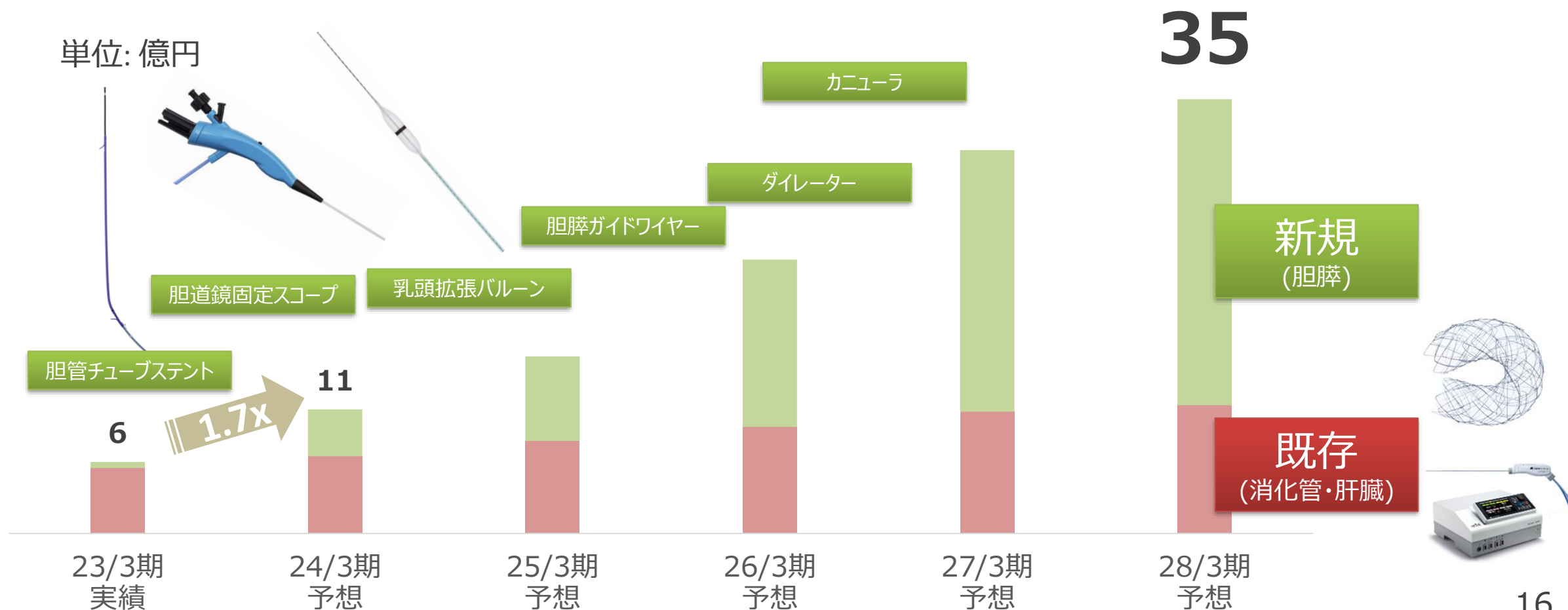


胆道鏡



胆膵ガイドワイヤー
乳頭拡張バルーン

発売済の胆管チューブステントを軸に、胆膵関連の新規を伸ばす
 中期で4～5品目の自社製品の発売を見込む



- | | |
|-------------|----------------|
| 1.会社紹介 | 代表取締役副社長 鈴木 厚宏 |
| 2.既存領域の取り組み | // |
| 3.新領域の取り組み | 取締役 村瀬 達也 |
| 4.中期経営計画の概要 | 取締役 江川 毅芳 |

✓新中期経営計画の枠組み

- 対象期間： 2024/3期～2028/3期（固定の5年間）

- 数値目標：

売上高
630億円
(2028/3期)

新領域*¹売上高
80億円
(2028/3期)

営業利益率
20%水準
(每期)

EPS
120円
(2028/3期)

ROIC
12%
(2028/3期)

✓進捗レビュー

- 時期： 年1回 Q4決算発表時（5月頃）
- 内容： 数値目標の「**達成見通し**」を毎年開示する

*1 脳血管領域と消化器領域

✓ 着実な売上高・営業利益の成長に加え、資本効率を意識した経営を推進

売上高
630億円
(2028/3期)

新領域*¹売上高
80億円
(2028/3期)

営業利益率
20%水準
(毎期)

EPS
120円
(2028/3期)

ROIC
12%
(2028/3期)

1. 新領域の拡大

- ・ 脳血管及び消化器領域の拡大に最注力

2. 競争力のある製品の継続的導入

- ・ オンリーワン製品の再強化
- ・ 継続的に新製品・商品を導入し、市場競争力と高い粗利率(55～58%程度)を確保
- ・ 研究開発の強化

3. 資本効率を意識した経営の強化

- ・ 資本効率を意識した経営を実行
- ・ システム投資の強化
- ・ オペレーション(営業効率や在庫効率)の改善
- ・ 株主還元の強化

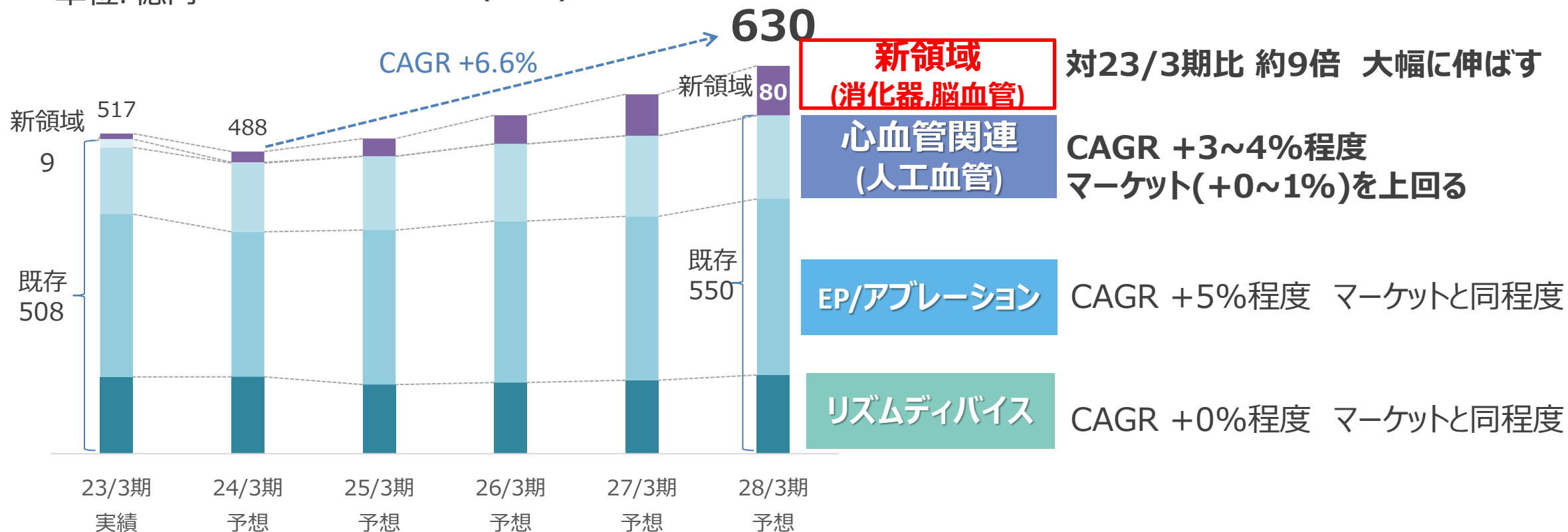
*1 脳血管領域と消化器領域

売上高 23/3期
517億円



売上高 28/3期
630億円

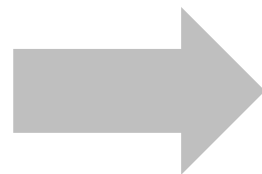
単位: 億円 連結売上高(予想)



保険償還改定

保険償還改定

営業利益率 23/3期
20.9%



営業利益率 各期
20%水準

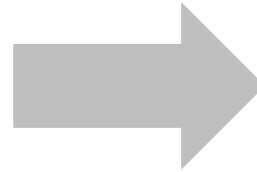
マイナス

- 保険償還価格の改定による粗利率の低下
- 脳血管の売上拡大による、自社製品比率の低下
- 販管費の増加（人件費、IT投資、減価償却費など）

プラス

- 新製品の導入による粗利率の上昇
- オペレーションの改善による販管費の効率化

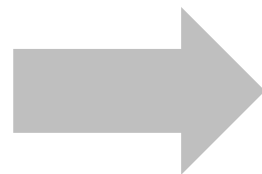
EPS 23/3期
88円



EPS 28/3期
120円

- 株主に対するリターンの重要な指標であると考え、新規に採用
- 売上高、営業利益率の目標及び資本政策を踏まえて、
EPS120円を達成すべき水準と設定
- 経営陣の報酬とも今後連動

ROIC 23/3期
11.9%



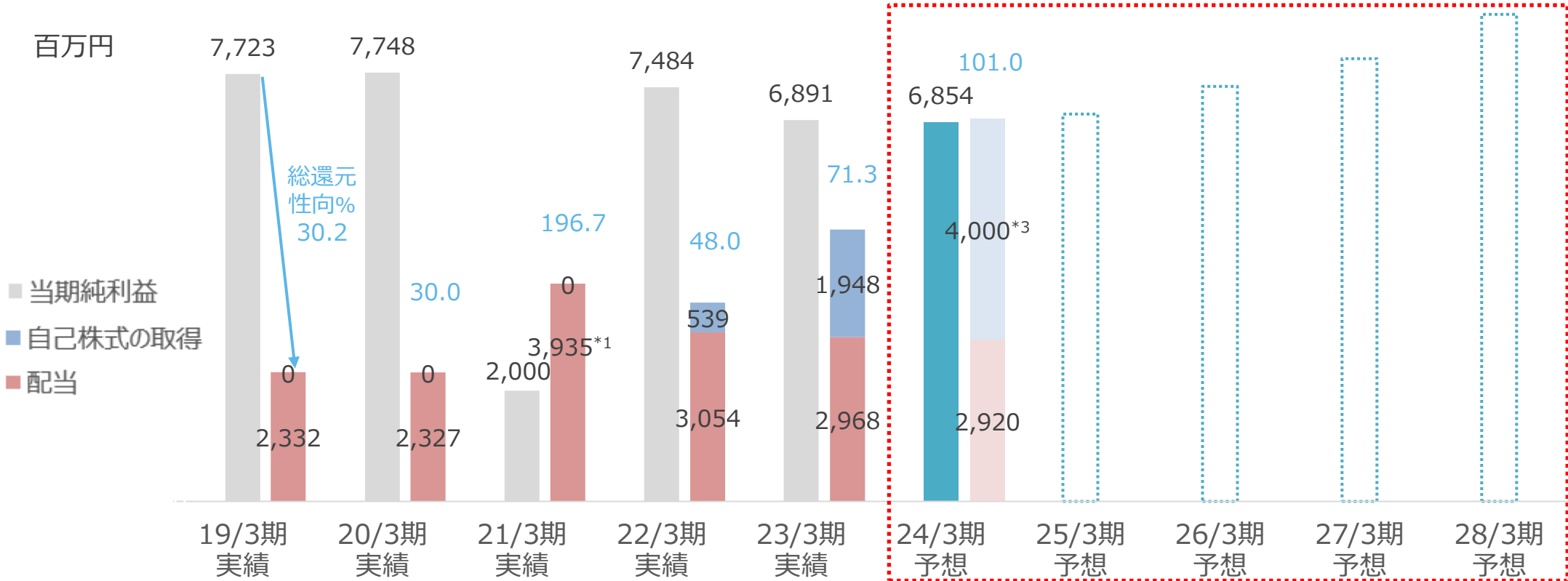
ROIC 28/3期
12.0%

- 投資や運転資本の効率的な運用を行うために設定
 - 現状は、資本コスト（WACC 6 ～ 7 %）を 5 ～ 6 % 程度上回る認識
 - 現状水準を維持するためには、利益率の向上と同時に**資本の最適化**が必要
- ⇒ 株主還元も強化していく

- ✓ ベース配当(配当性向40%程度)
- ✓ 配当の上乗せと自己株式の取得で還元強化



目標: 5年で総額250億円程度



EPS(円)	96.05	96.55	24.91	93.13	88.22	89.13	-	-	-	120
1株当たり配当(円)	29.00	29.00	49.00 ^{*1}	38.00	38.00	38.00	-	-	-	-
配当性向(%)	30.2	30.0	196.7 ^{*2}	40.8	43.1	42.6	-	-	-	-

*1 創立40周年記念配当20円を含む。 *2 多額の特別損失の計上（5,982百万円）があったため、異常値となっています。 *3 2024年3月期の自己株式の取得の上限額

ご注意事項

本資料の記載内容のうち、歴史的事実でない事項は、当社の将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。特に、商品や製品の導入に係る、治験および薬事承認に係る事項、また発売時期につきましては、過去の経験や入手可能な情報から得られた当社の予測であります。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本資料記載の見通しと異なる可能性がありますので、これらの見通しに過度に依存されないようお願いいたします。

本資料に関するお問い合わせ先

日本ライフライン株式会社
経営企画部

TEL:03-6711-5214

E-Mail:ir@jll.co.jp

URL:<https://www.jll.co.jp>